

SRI LANKA

2020.12



農水産品・ 食品関連（機械含む） 現地ニーズレポート

経済産業省
令和2年度技術協力活用型・
新興国市場開拓事業補助金
（社会課題解決型国際共同開発事業
（製品・サービス開発等支援事業））

アイ・シー・ネット株式会社



CONTENTS

	03	概況・特徴
	07	参入事例
紅茶	11	業界構造
	12	市場規模
	14	ニーズが見込まれる製品・サービス
	15	パートナーとすべき現地企業の特徴
	16	現地パートナー候補リスト
スパイス	19	業界構造
	20	市場規模
	22	ニーズが見込まれる製品・サービス
	24	パートナーとすべき現地企業の特徴
	25	現地パートナー候補リスト
輸出用青果	29	業界構造
	30	市場規模
	33	ニーズが見込まれる製品・サービス
	34	パートナーとすべき現地企業の特徴
	35	現地パートナー候補リスト
乳製品	41	業界構造
	42	市場規模
	45	ニーズが見込まれる製品・サービス
	47	パートナーとすべき現地企業の特徴
	48	現地パートナー候補リスト
海産物	52	業界構造
	53	市場規模
	55	ニーズが見込まれる製品・サービス
	56	パートナーとすべき現地企業の特徴
	57	現地パートナー候補リスト



概況・特徴 ①

国の方針

- 輸出増大(付加価値増大)
→ 付加価値作物、収穫後処理の向上ニーズ、加工技術
- 持続可能な農業・食の安全
→ 有機農業への関心

食糧自給率の高さ

- コメ・野菜中心の食生活
- 一方で乳製品の輸入は増大傾向

生産性の低さ

- GDPに占める農林水産業の割合は7.7%(2017年)にとどまり、年々低下傾向
- 一部の食品(豆類など)は輸入した方が安い

労働力人口に占める農業部門の割合は、2008年の32.6%から2017年には 26.1%へ減少している。



- 輸出額拡大に貢献する高付加価値食品の生産
- 機械化などにより生産性を向上し、競争力を高める



概況・特徴 ② - 主要作物

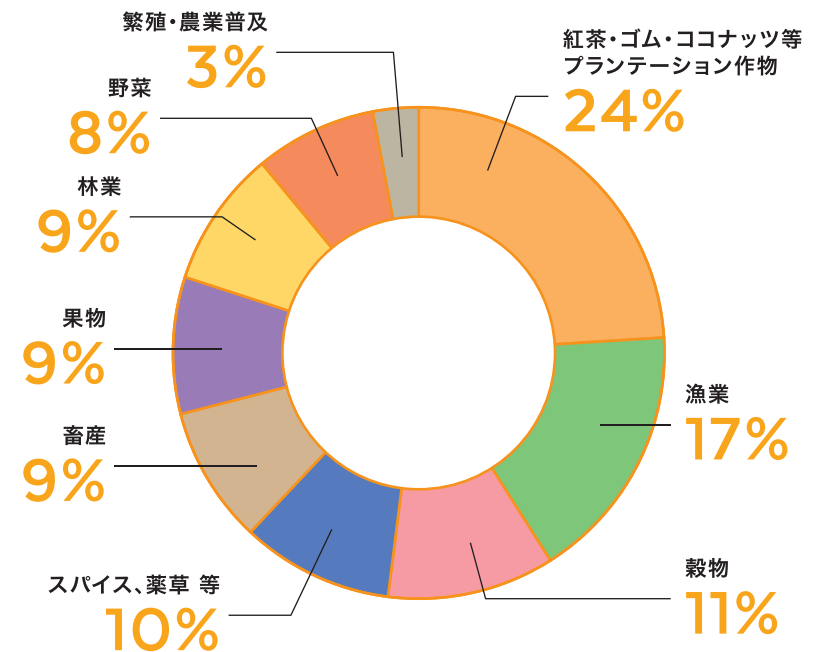
- コメなどの穀物と、紅茶・天然ゴム・ココナツなどのプランテーション作物が主要作物である。
- 主要作物の生産量は減少傾向にある一方、スパイス、畜産、野菜・果物の生産は増加傾向である。

主要作物の生産状況

単位:万トン

作物	2013	2014	2015	2016	2017
コメ	462	338	323	296	162
ココナツ	251	287	285	252	258
茶	34	34	34	35	35
天然ゴム	13	11	16	16	17

GDPに占める農業生産法人の貢献シェア



(出所)スリランカの農林水産概況、農林水産省、2019年、SRI LANKA Overarching Agricultural Policy Draft, Ministry of Agriculture, Rural Economic Affairs, Irrigation, and Fisheries, And Aquatic Resources Development, Ministry of National Policies, Economic Affairs, Resettlement and Rehabilitation, Northern Province Development and Youth Affairs, August 2019



概況・特徴 ③ - 輸出入

農産物輸出入上位5品目(2016年)

輸出

単位:百万USD、%

品目	輸出額	シェア
茶	1,252	48.0
シナモン	159	6.1
調製食料品	156	6.0
ココナツ(乾燥)	106	4.0
ココナツ(油)	94	3.6
総額	2,609	100.0

注:林・水産物を除く

輸入

単位:百万USD、%

品目	輸出額	シェア
精製糖	318	14.3
小麦	230	10.4
全乳粉	212	9.5
レンズ豆	139	6.3
チリペッパー(乾燥)	93	4.2
総額	2,222	100.0

農林水産物貿易上位5品目(2016年)

輸出(日本→スリランカ)

単位:百万USD、%

品目	輸出額	シェア
播種用の種など	68	35.2
いわし(生鮮・冷蔵・冷凍)	16	8.1
さば(生鮮・冷蔵・冷凍)	15	7.9
緑茶	12	6.4
アルコール飲量	8	4.2
総額	194	100.0

輸入(スリランカ→日本)

単位:百万USD、%

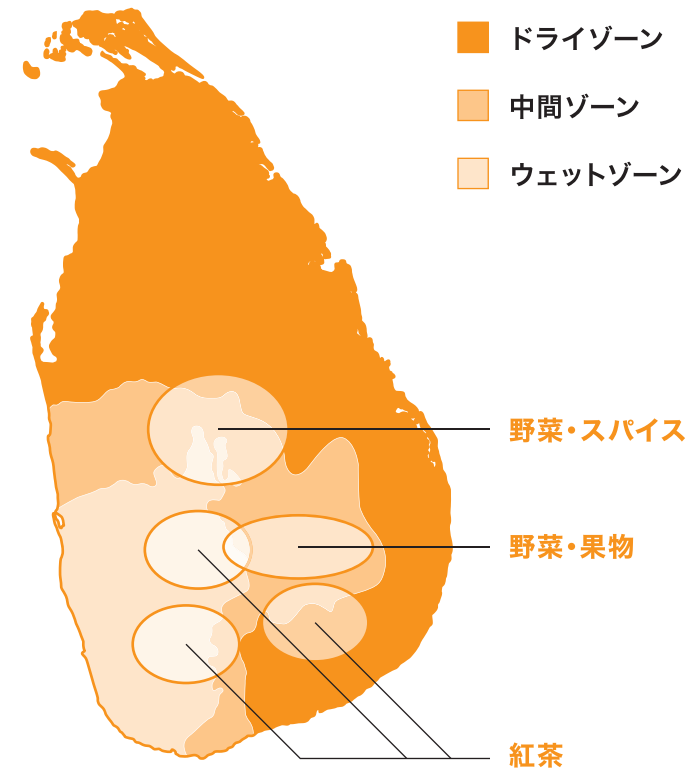
品目	輸出額	シェア
紅茶	5,006	41.3
エビ(生鮮・冷蔵・冷凍)	1,376	11.4
いか(生鮮・冷蔵・冷凍)	638	5.3
天然ゴム	473	3.9
生鮮・乾燥果実(ココヤシの実)	326	2.7
総額	12,122	100.0

(出所)スリランカの農林水産概況、農林水産省、2019年、FAO 統計、財務省貿易統計



概況・特徴 ④ - 気候・主要農業生産地

	平均気温	平均降水量
ドライゾーン	28℃	< 1,750mm
中間ゾーン	24-26℃	1,750-2,500mm
ウェットゾーン	24℃	> 2,500mm



(出所)スリランカ農業省ウェブサイトより調査団作成



参入事例

名称	製品・サービス	ビジネスモデル概要	所在地/ウェブサイトなど
クボタ	トラクター・コンバイ・田植え機など	現地代理店を通じて販売を行っている	https://agriculture.kubota.co.jp
井関農機	コンパクトトラクタ	米国AGCO社にコンパクトトラクタなどをOEM供給しており、AGCO社の傘下でMassey Fergusonとして販売されている	https://www.iseki.co.jp/company/globalvision/
カワサキ機工	可搬式摘採機	現地代理店を通じて可搬式茶摘み機などを販売している	http://www.kawasaki-kiko.co.jp
ナチュラルコーヒー	コーヒーの栽培・輸入、カフェの運営	100%オーガニックのコーヒー豆の栽培指導を行い、日本にフェアトレード商品として輸入している	https://naturalcoffee.lk
Kenko 1st	野菜の有機栽培・販売	提携農家に有機栽培の指導をし、野菜などを買取り販売している。自社農園での栽培も行っている。主な顧客は外国人・富裕層など	https://kenko1st.org
キリンホールディングス	紅茶の調達・認証取得支援	CSV活動の一環で、スリランカの茶園の持続可能な農園認証制度「レインフォレスト・アライアンス」の取得支援をしている	https://www.kirin.co.jp/csv/connection/srilanka/index.html



JICAスキームを活用した進出検討事例

案件名	スキーム	提案企業
北部・東部州のヒマ栽培による低炭素・エネルギー自給型 コミュニティ形成事業準備調査(BOPビジネス連携促進)	協力準備調査	株式会社PEARカーボンオフセット・イニシア ティブ、株式会社グリーン・マテリアルズ研究所、 日本工営株式会社 共同企業体
高付加価値なヘナの栽培・加工方法の構築を通じた 農家の生計向上に関する案件化調査	案件化調査	株式会社ジャパンヘナ
茶成分分析計を活用した 紅茶産業競争力強化に関する普及・実証事業	案件化調査 普及・実証・ ビジネス化事業	カワサキ機工株式会社
減農薬、無農薬農法の為のLED式防虫灯具による 効果的運用の基礎調査	基礎調査	トスレック株式会社
農村生産者コミュニティの コーヒー分散型生産・集約管理システムの導入基礎調査	基礎調査	株式会社ナチュラルコーヒー
農業生産性および食の安全性の向上を実現する 水稲圃場情報提供システム構築のための案件化調査	案件化調査	株式会社ビジョンテック
土壌改良剤を使った有機農業の促進にかかる案件化調査	案件化調査	株式会社サンスイ

(出所)JICAウェブサイトより調査団作成



対象品目

- スリランカ市場の現状と日本側の参入機会から検討した。

品目	現状	参入機会
紅茶	主要生産品目であり、主要輸出品目である。近年他国に比べ、輸出額が伸びておらず、世界第四位の輸出額となっている。生産コストを下げるための機械化と、付加価値を高めるための技術が求められる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶摘み機 ・ 加工機 ・ 選別機 ・ 包装機
スパイス	シナモン・カルダモンなど高品質なスパイスが生産でき、周辺国を中心として人気が高いまた、高価なものもあるため、輸出のポテンシャルが高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粉碎機 ・ 乾燥機 ・ 包装機
輸出用野菜/果物	国の政策の一部として持続的な農業と食の安全が掲げられている。また、輸出量を増やすため、生産性向上に関する技術への関心が高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有機栽培関連技術 ・ 施設園芸関連技術 ・ 種苗
乳製品	経済成長とともに、消費量が拡大しており需要が高まっているが、現地での生産性が向上していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搾乳機 ・ 乳製品加工機械
海産物	周囲を海で囲まれた島国であるにもかかわらず、輸出額が増えていない。日本にはエビなどを輸出しているが、拡大の余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷蔵保存技術 ・ 缶詰など加工技術 ・ 養殖技術

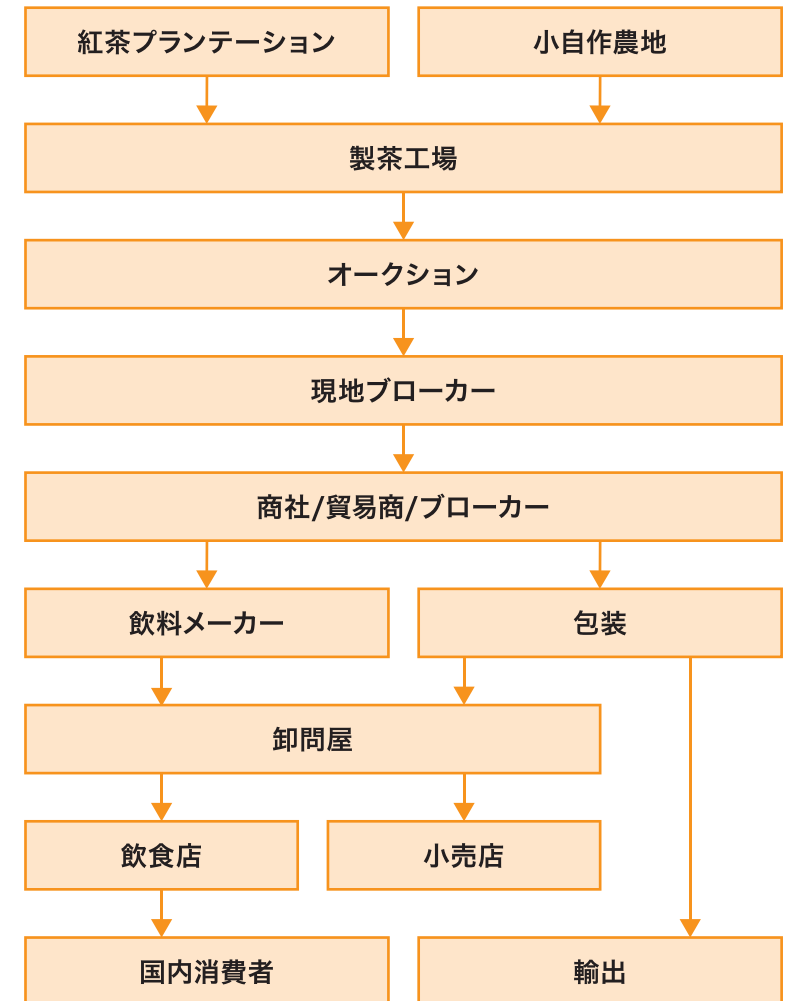
1

紅茶



業界構造(紅茶)

- 紅茶はプランテーション及び小自作農地で生産されている。
- 生産された茶葉の約95%が、オークションを通して国際市場で取引される。
- バリューチェーンが長く、生産者が受け取る価格と、消費者の末端価格の開きが大きい。
- 流通の合理化が必要
- 生産コストの削減が必要となる
- 茶摘み、選別、製茶、包装の過程で機械が使用されている。



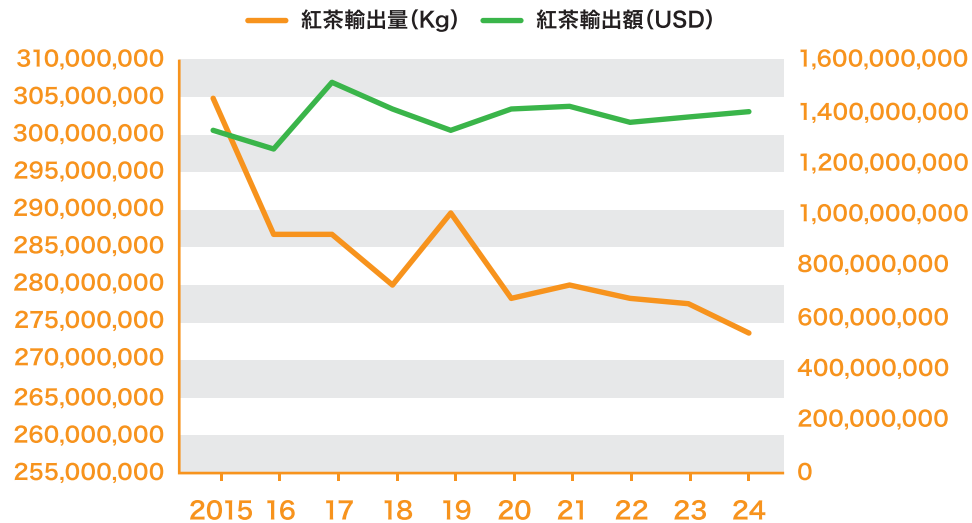
(出所) 現地紅茶関連団体ヒアリング及び、栗原俊輔(2015)「バリューチェーンと労働者をめぐる一考察—スリランカ紅茶プランテーション農園労働者の付加価値と貧困—」宇都宮大学国際学部研究論文集第40号より調査団作成 スリランカ紅茶局ウェブサイトより



市場規模(紅茶)

- 紅茶の生産量は労働力不足、生産性の低さ、改植が進んでいないこと、気候変動などの影響から減少傾向にある。
- 一方、紅茶の国際価格が上昇傾向にあるため、輸出額は減少していない。

スリランカの紅茶輸出量と輸出額



競合品の価格

製品	競合品の価格
携帯型茶摘み機	中国・香港: 約200~800 USD
色彩選別機	中国・ドイツ: 約75,000 USD
加工機	インド: 約30,000 USD
ティーバッグ包装機	中国: 約26,000 USD アルゼンチン: 約49,000 USD 韓国: 約81,000 USD インド: 約88,000 USD ドイツ: 約401,000 USD イタリア: 約468,000 USD

各機材の輸入金額

機材名	輸入金額
茶摘み機	558,431 USD (2018年)
色彩選別機	5,221,887 USD (2018年)
加工機	2,132,503 USD (2018年)
ティーバッグ包装機	8,449,903 USD (2018年)

(出所)スリランカ輸出開発局データより調査団作成、現地紅茶関連団体ヒアリングより調査団作成



政府の方針・助成金など

	内容
政府方針	<p>【繁栄の輝きと展望】:現政権による政府方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際市場に「ピュアセイロンティー」を普及する。 ・バルクでの茶葉の販売を抑制し、付加価値を高めた形での販売を促進する ・官民連携により市場を取り戻す ・有機栽培を促進し普及する ・生産性向上と品質向上のための研究機関を再構築し新技術を紹介する
補助金	<p>【小自作農家向け - 小自作農地開発局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植栽スキーム1: 土壤再建を伴う改植 <ul style="list-style-type: none"> - 土地の準備: 130,000ルピー/ha - 土壤再建: 250,000ルピー/ha - 改植: 120,000ルピー/ha ・植栽スキーム2: 混植 25ルピー/本 ・植栽スキーム3: 土壤再建を伴わない新規植栽 <ul style="list-style-type: none"> - 土地の準備: 110,000ルピー/ ha - 植栽: 160,000ルピー/ha - 維持管理: 40,000ルピー/ha <p>【プランテーション(10エーカー以上向け) - 紅茶局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壤再建を伴う改植-500,000ルピー ・土壤再建を伴う新規植栽-400,000ルピー ・土壤再建を伴わない新規植栽-310,000ルピー ・隙間での混植: 25ルピー/本 <p>【工場の近代化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100万ルピーを上限とする30%の該当設備への補助



ニーズが見込まれる製品・サービス

製品・サービス	想定する顧客	顧客のニーズ・課題	顧客の購買力
携帯型茶摘み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紅茶エステート ・ 小自作農家 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの紅茶生産者が小自作農家で生産性が低い ・ 労働力不足が深刻な課題であり、茶摘みの工程の機械化が喫緊の課題 ・ 茶畑は丘陵地帯にあり、畝の幅が狭いため、携帯式の茶摘み機のニーズが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中規模以上の農家であれば投資余力はあるが、小規模であれば金融サービスと併せて提供することが重要 ・ 競合品の価格: 約200~800USD
包装機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紅茶加工事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在約50%の紅茶がバルクで輸出されており、付加価値が低い。 ・ 付加価値を上げて新しい市場に販売するニーズがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近代化設備として補助金の対象になり得る ・ 競合品の価格 中国製: 約26,000USD イタリア製: 約468,000USD
包装委託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紅茶加工事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模な加工事業者はティーバッグなどの包装設備に投資することができないため、包装などの加工プロセスの一部を外部委託したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包装により向上する付加価値がコストに見えれば委託する



パートナーとすべき現地企業の特徴

業種	特徴	進出形態
資機材供給企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本製品の特徴を理解し、長期的な目線で農園に対してのメリットをアピールすることができる企業 ・ 金融サービスと一緒に機材の販売を行うことができる企業 ・ 商品の販売だけでなく、メンテナンスなどアフターサービスに対応できる会社 	<p>輸出：日本で製造した企業を現地で販売するために、販売代理店契約を締結する</p>
紅茶栽培企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本市場でニーズのある付加価値の高い紅茶(有機栽培茶)などに関心の高い事業者 	<p>調達先：現地で栽培された紅茶を日本に輸入し、販売する。場合によっては、紅茶の付加価値向上のための技術指導を行う</p>
加工企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ パッキングなどで付加価値を高めることに関心のある事業者 	<p>輸出：パッキング・資材機材などを販売する 合併事業：パッキング事業を合併で展開する</p>
流通企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米及び日本向けの市場をターゲットとしている企業 	<p>調達先：現地で日本向け商品を取り扱う企業から日本に輸入し、販売する</p>

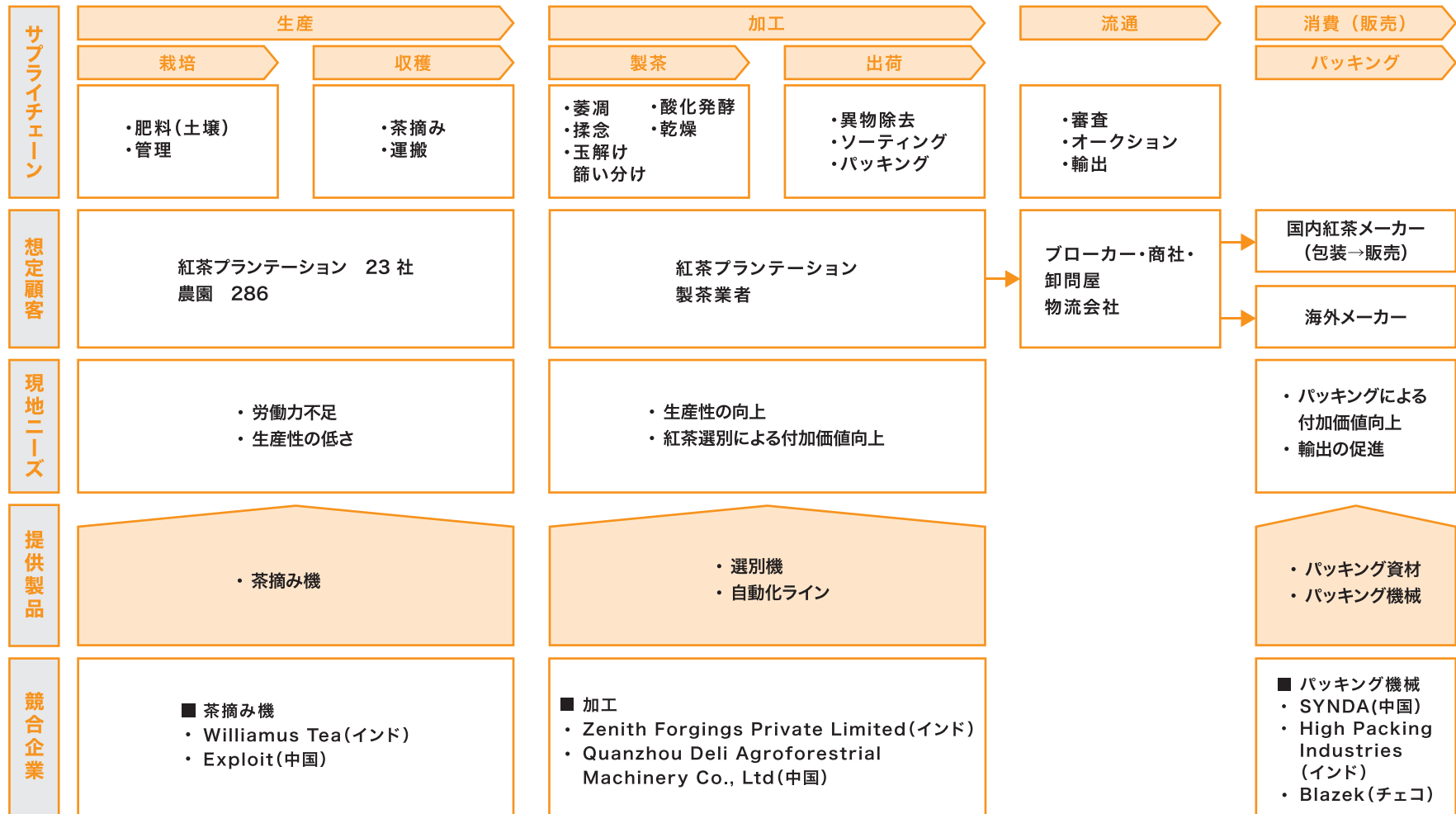


現地パートナー候補リスト

名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
Halpe Tea	製茶・小売・輸出・ 紅茶ツーリズム	幅広い先進的な取り組みを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・パッキング委託事業の展開パートナー ・紅茶ツーリズムのパートナー 	https://www.halpetea.com
Lassakanda Tea	製茶、紅茶加工製品の製造	比較的規模が大きく、多くの従業員（約500名）が在籍している	<ul style="list-style-type: none"> ・粉末のアイ스티ーの製造技術・機械の紹介先 ・紅茶造粒技術・機械の紹介先 ・上記事業の合併パートナー 	https://rainbowpages.lk/other/unclassified/new-lassakanda-tea-factory/
Adamexpo	パッキング・輸出	国際市場で求められる製品の製造	<ul style="list-style-type: none"> ・日本向け商品の生産 	www.adamexpo.net
Daily Tea pvt. Ltd	製茶・パッキング・輸出	ニーズに合った包装の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・日本向け商品の生産 	https://dailytealanka.com



スリランカにおける紅茶産業の参入可能性



2

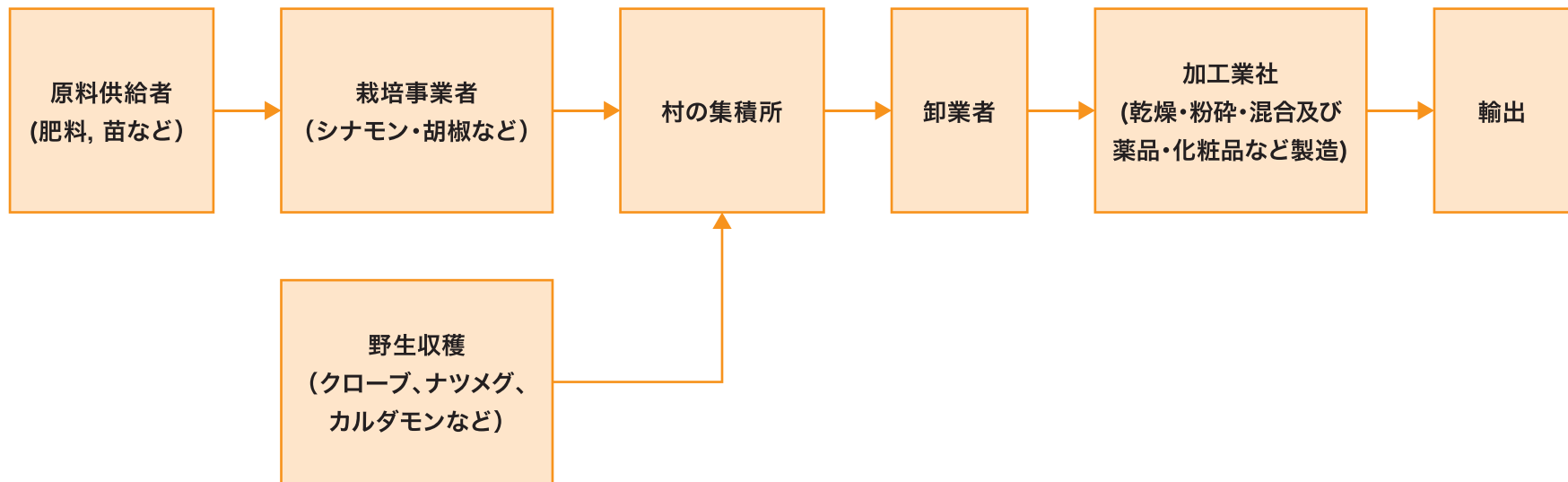
スパイス



業界構造(スパイス)

スパイスの輸出までのバリューチェーン

- 野生のものも収穫され流通されている
- 食品としてだけでなく薬品・化粧品としても加工され、販売される



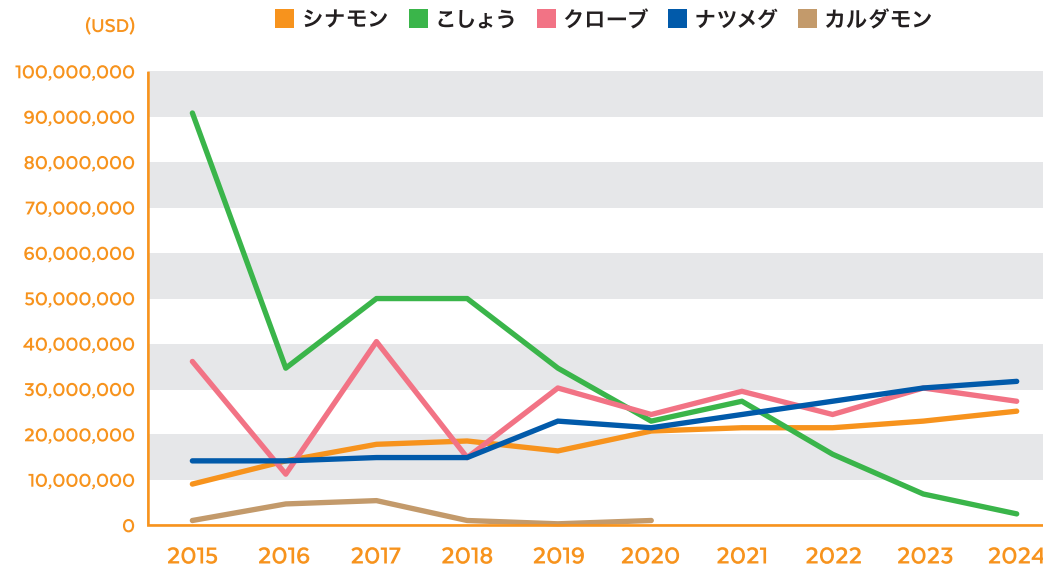
(出所)現地スパイス関連団体ヒアリングより調査団作成



市場規模(スパイス)

- 2020年以降は予測値
- こしょう(世界5位)、シナモン(世界4位)、クローブ(世界4位)、ナツメグ・メース・カルダモン(世界5位)の生産量
- スパイスの単価は国際相場の影響を受け変動する
- 2015年に政権の変更により、こしょうのイランへの輸出量が一時的に増加したが、輸出を継続することができなかった。

スパイスの輸出額



(出所)スリランカ輸出開発局データより調査団作成



政府の方針・助成金など

	内容
政府方針	<p>【農業作物の輸出に関する国家方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産性の向上 ・良質な種子と農業資材の安定供給 ・有機肥料の利用促進と、化学肥料の削減 ・合成殺虫剤の使用量削減とバイオ農薬の利用促進 ・機械化の促進 ・研究開発に対する支援 ・農業普及・教育システムの拡充 ・収穫後処理技術の向上 ・マーケティングによる輸出促進 ・民間企業との連携によるアグロインダストリーの促進 ・伝統的な薬品製造などの知識の継承 ・輸出手続きの簡素化 等 <p>【包括的農業方針(案)2019年8月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代化した加工工場と加工機械へのインセンティブの付与 ・植栽と再植栽への補助金 ・加工機への補助金 ・生産性を向上する事業者への補助;種子、肥料、機械などの入手可能価格での供給
制度	<p>国家食品生産計画のもと農家に対する効率・私立銀行による緩和策の実施及び農業機械購入のための補助事業の実施することの指示が出された</p>
税制度	<p>【港湾空港開発徴税法 No.18、2011】 加工機器に対する、2.5%の軽減税率の適用</p>



ニーズが見込まれる製品・サービス

製品・サービス	想定する顧客	顧客のニーズ・課題	顧客の購買力
有機栽培関連商品	<ul style="list-style-type: none"> 栽培事業者 	<ul style="list-style-type: none"> 有機栽培に使用可能な肥料・殺虫剤・殺菌剤などのニーズがある 	-
スパイス加工機	<ul style="list-style-type: none"> 加工事業者 	<ul style="list-style-type: none"> 天日乾燥をしているが、天候不良時のために乾燥機を導入したい シナモンとバニラの粉砕機のニーズがある。スリランカ製の粉砕機は摩擦熱により発熱し、必要な成分を破壊してしまうため、温度管理機能を持つ機械のニーズがある こしょうとナツメグのアフラトキシンを除去するシステム 	<ul style="list-style-type: none"> 機械の能力、耐久性、アフターケア、スリランカまでの輸送費、安価な燃料を使えるか、スリランカの電圧への対応などにより総合的に判断される
検査機器・検査機関	<ul style="list-style-type: none"> 加工事業者 輸出事業者 	<ul style="list-style-type: none"> 細菌・カビ(特にとうがらしのアフラトキシン)の検査機器のニーズがある。スリランカ国内の基準は超えていないため国内流通は可能であるが、ヨーロッパ基準はより高い基準が求められるため、検査機器および検査機関が必要とされている 	<ul style="list-style-type: none"> 価格は機械の検査機器の精度によって決まる
スパイス包装機	<ul style="list-style-type: none"> 加工事業者 	<ul style="list-style-type: none"> 自動包装機、シュリンクフィルム包装などのニーズがある 	<ul style="list-style-type: none"> 現地企業で国際的に展開している企業であれば、政府の支援も得られやすく、投資の可能性が高い



ニーズが見込まれる製品・サービス

製品・サービス	想定する顧客	顧客のニーズ・課題	顧客の購買力
ココナツ加工機	・ 加工事業者	・ ココナツの細断過程の改善、色彩選別機、湿度記録機のニーズがある	・ 機械の能力、耐久性、アフターケア、スリランカまでの輸送費、安価な燃料を使えるか、スリランカの電圧への対応などにより総合的に判断される
ハーブ加工機	・ 加工事業者	・ ハーブの粉碎・洗浄・乾燥のニーズ ・ 加工製品の乳液をボトル機に充填する機材のニーズ ・ エッセンシャルオイルの精製機、フリーズドライの機器のニーズ	
バニラ精製機	・ 加工事業者	・ バニラの精製技術についての技術提携のニーズがある	



パートナーとすべき現地企業の特徴

業種	特徴	進出形態
資機材供給企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本製品の特徴を理解し、スパイス農家及び加工企業に対し、高付加価値製品の提案することができる企業 ・ スパイス農家のネットワークを持つ企業 	輸出：スパイス・ハーブ栽培及びスパイス加工・ハーブ加工に関連する機器を日本から輸出し販売する
栽培事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有機栽培を行っているもしくは有機栽培に関心の高い事業者 ・ 栽培から加工販売まで一貫して行っている、規模の大きい事業者 	調達先：スパイス・ハーブを現地で調達し日本で食品原料及び化粧品・薬品原料として販売する
加工事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外向けの製品を取り扱っており、国際的な規格を取得している事業者 	調達先：スパイス・ハーブ製品を現地で調達し日本で食品・化粧品・薬品として販売する 合併事業の展開：現地で加工・包装事業を行い、製品を輸出・販売する
食品検査企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政府・国際機関のライセンスを取得できる事業者 	輸出：スパイスのカビに関する検査機器の輸出。 合併事業：スパイスを含む食品検査事業を展開する
流通企業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外に多く販路を持ち、高品質な物を取り扱っている事業者 	調達先：スパイス・ハーブ製品及び原料を調達し日本で食品などの原料及び化粧品などの原料として販売する



現地パートナー候補リスト

名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
Senikma Holdings (Pvt) Ltd	ココナツの栽培加工販売・ スパイス加工販売・ ドライフルーツ加工販売	海外との取引が多い。 ココナツは欧州有機認証を 取得している	・ココナツ加工関連 機器の導入	www.senikmaholdings.com
Link Natural Products (Pvt.) Ltd	東洋医学薬品製造販売、 ハーブ製品製造販売	「Samahan」という 現地で有名な薬の製造企業	・ハーブの加工 ・ボトル充填機の導入	http://linknaturalproducts.com/global-presence/
WIJAYA PRODUCTS (PVT) LTD	スパイス加工販売	主要スパイス 加工企業の一つ	・アフラトキシン検査機器・ 選別機器導入	https://www.spiceswijay.com/index.php
Ceylon Sergo Exports (Pvt) Ltd	有機スパイス栽培製造 販売・輸出	有機栽培を行っており、 欧米の認証を取得している	・新しい製造ラインの導入 ・合併事業のパートナー	https://ceylonsergoexports.com

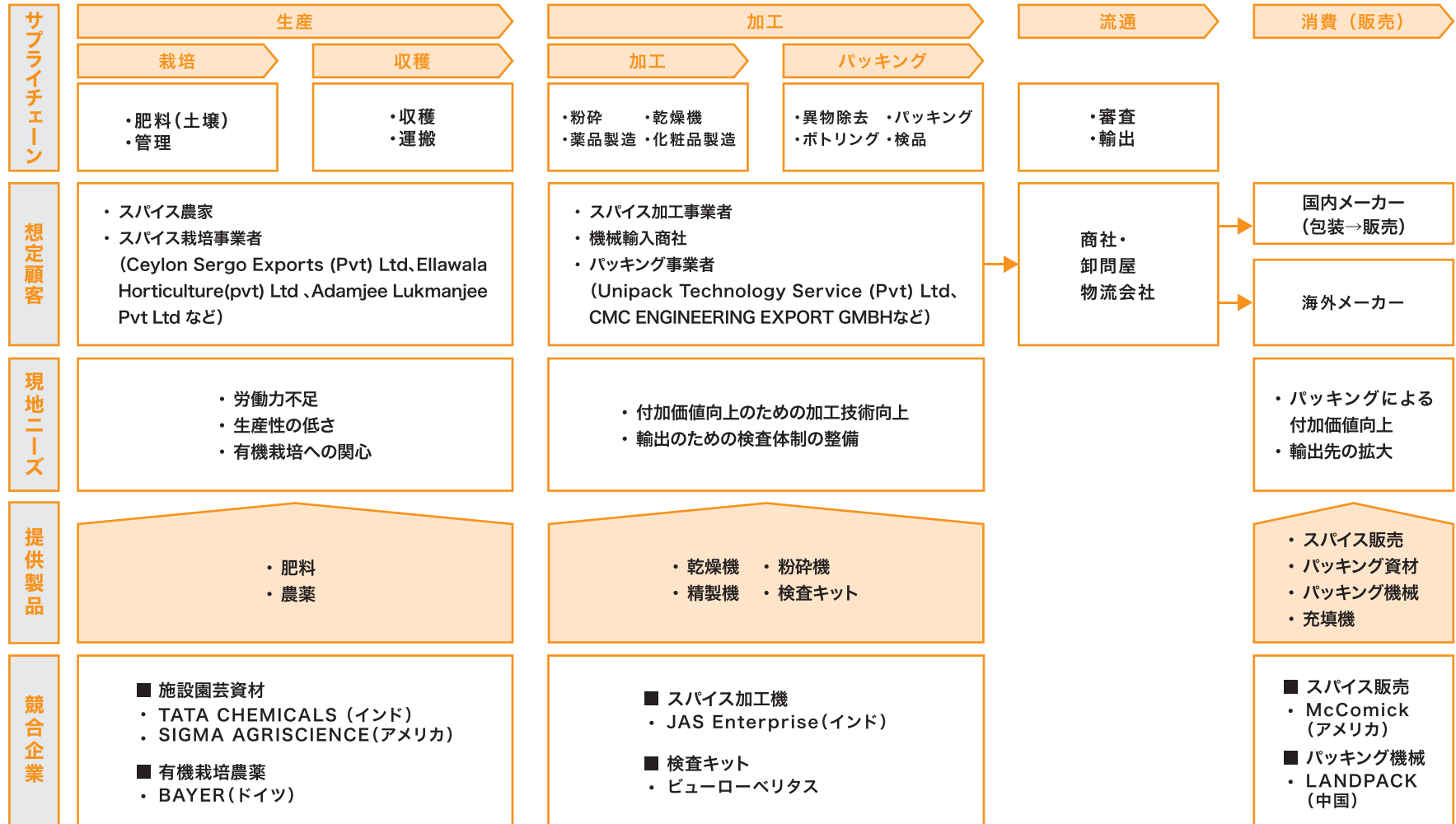


現地パートナー候補リスト

名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
D & P Ceylon Expo (Pvt) Ltd	スパイス加工販売	スリランカで最も多くのバニラを輸出している	<ul style="list-style-type: none"> ・バニラの精製技術の導入 ・シナモン加工技術の導入 	http://www.dpceylon.com/index.html
Ellawala Horticulture (pvt) Ltd	ハーブの栽培・加工・販売	ハーブの栽培・加工・苗の販売など幅広く事業を展開している	<ul style="list-style-type: none"> ・エッセンシャルオイルの精製技術の導入 ・有機栽培関連商品の導入 	http://www.tjcmango.com
Adamjee Lukmanjee Pvt Ltd	スパイス栽培・加工・販売・輸出	輸出だけでなく、家畜飼料の輸入販売なども行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・こしょうとクローブの乾燥技術の導入 	http://www.adamjeelukmanjee.com
CFT International (Pvt) Ltd	スパイス加工・販売	シナモンの輸出を主にやっている	<ul style="list-style-type: none"> ・自動包装機とシュリンクフィルム包装機の導入 	https://www.srilankabusiness.com/exporters-directory/company-profiles/c-f-t-international-pvt-ltd/
EOAS Organics (Pvt) Ltd	スパイス加工・販売事業	エッセンスの抽出などを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・より高度なエッセンス抽出技術の導入 ・ナツメグのアフラトキシン除去技術の導入 	http://www.eoasorganics.com/company.html



スリランカにおけるスパイス産業の参入可能性



3

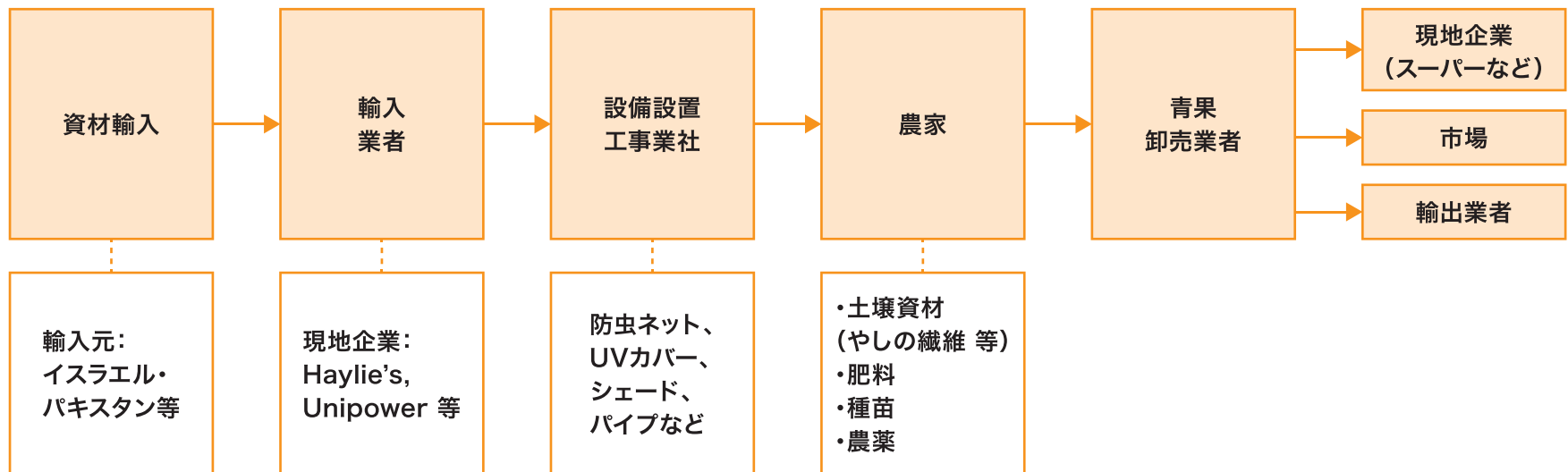
輸出用青果



業界構造(輸出用青果)

バリューチェーン(施設園芸)

- 青果の物流は伝統的には取引専用センターに集める形であるため、非効率であったがスーパーなどの新しい小売形態の普及により、新しい物流網が構築されつつある
- スーパーマーケットチェーンでは流通ロスの削減、高付加価値商品の販売、需給バランスの調整などバリューチェーン改善のための新しい取り組みを開始している



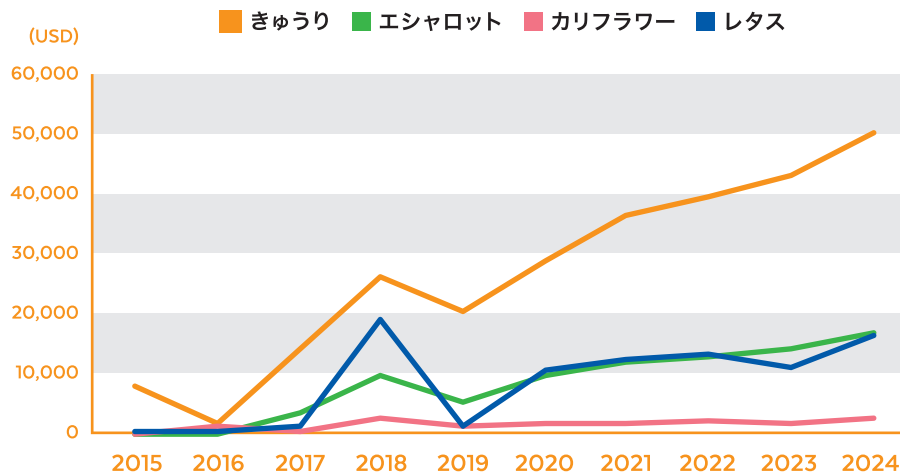
(出所)現地施設園芸関連団体ヒアリングより調査団作成



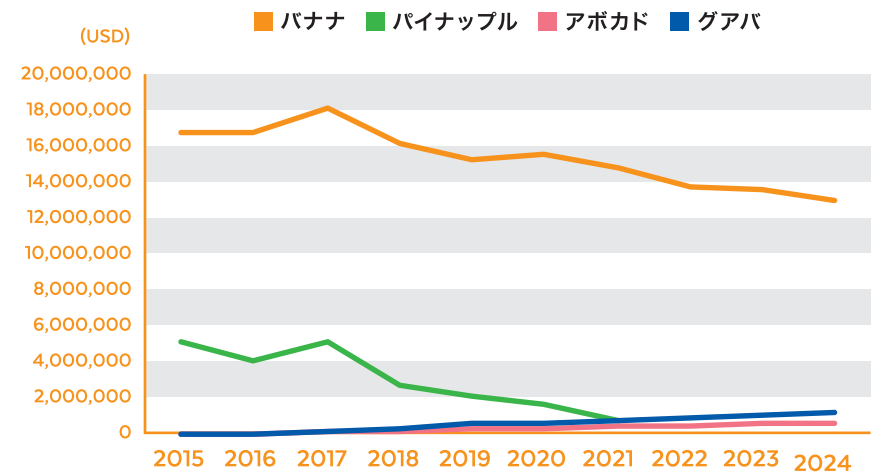
市場規模(輸出用野菜/果物)

- 2020年以降は予測値である。
- 果物の輸出量は増加傾向にあるものの、国際競争により価格が下がっているため、果物の輸出金額が減少傾向にある。
- 主な青果の輸出先はモルディブである。その他はアジアの周辺国及び中東と少量ではあるが欧州にも輸出している。中東と欧州への輸出が少しずつ増加しつつあるため、青果の輸出金額は増加傾向にある。

輸出額:野菜



輸出額:果物



(出所)スリランカ輸出開発局データより調査団作成



市場規模(輸出用野菜/果物)

- 施設園芸や有機栽培に関する関心は高いものの、現状では技術や知識が不足しているため、市場が限られている。

施設園芸の市場規模

バドゥツラ県

面積(m ²)	施設の数	面積	農家数
約100	2,020	約2,020,000	1,500
約200	640	約1,280,000	640

ヌワラエリヤ県

	面積(mi)	農家数
ハウス	約50,000	423
雨除け	約9,000	119
日除けハウス	約12,000	244

有機農業の市場規模

面積

年	面積(Ha)	総農業面積に占める割合(%)
2006	15,379	0.65
2014	19,617	0.75

輸出量

年	量(kg)	金額USD
2015	1,803,796	17,625,328
2016	871,544	9,550,104
2017	960,244	6,288,964
2018	1,112,549	7,669,139
2019	828,158	5,870,825

(出所)施設園芸関連団体ヒアリングより調査団作成、有機農業関連団体ヒアリングより調査団作成



政府の方針・助成金など

	内容
方針	<p>【包括的農業方針(案)2019年8月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代化した加工設備などに対してインセンティブを与える ・新しい作物の植栽や改植に補助金を与える ・肥料、農業資材、土壌管理などが対象となる ・農業バリューチェーン企業に対する事業開発補助金 <ul style="list-style-type: none"> - 農業生産性向上、種子の提供、肥料、取得可能な価格での機材の調達を対象となる
補助金	<p>【肥料補助】</p> <p>2020年10月、政府は2020～2021年にかけての農繁期に肥料の補助金を出すことを決定した</p>
法律	<p>【国家種子方針(1996)、種子法(2003)、国家農業方針(2007)】</p> <p>輸入される種子と既存の種子の質を担保する。種子と食糧生産資材の検査と認証方法を定める。異なる政府機関間での支援体制を整える。</p> <p>【農薬管理法(1980)】</p> <p>農薬の製造・輸入・販売・使用について定める</p> <p>【肥料規制法 No.68, 1988】</p> <p>肥料輸入・販売、民間での輸入の認証制度について定める</p>
税制度	<p>【港湾空港開発徴税法 No.18, 2011】</p> <p>加工機器に対する、2.5%の軽減税率の適用</p>



ニーズが見込まれる製品・サービス

課題

- 輸出事業者の需要に対して、生産量が確保できていないため、生産性の向上が求められている。
- 施設園芸などについての情報が不足している
- 輸出用作物栽培の需要を満たす規模で栽培するための投資が必要であるが、多くの企業が日本企業との合併会社設立による投資を求めている
- 日本への輸出を拡大するためには、両国の協定の合意が必要である

製品・サービス	想定する顧客	顧客のニーズ・課題	顧客の購買力
栽培資材	<ul style="list-style-type: none"> ● 栽培事業者 ● 資材販売事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ● 有機栽培に使用可能な農薬・肥料 ● 施設園芸の設備 ● 種子 	施設園芸の競合品はタイ・中国・韓国・ヨルダン・インドなどから輸入されている
栽培技術	<ul style="list-style-type: none"> ● 栽培事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設園芸のノウハウ ● 施設園芸の生産性向上技術・最新技術・ハイテク農業の紹介 	日本企業との合併事業による投資が求められている
加工技術	<ul style="list-style-type: none"> ● 加工事業者 ● 機械販売事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ● フリーズドライ/エッセンシャルオイルの精製/植物油の精製/洗浄・乾燥/包装 ● 浸透圧脱水/真空乾燥 ● レトルト機 	参考予算:浸透圧脱水機 200万ルピー 真空乾燥機 150万ルピー レトルト機 300万ルピー
流通技術	<ul style="list-style-type: none"> ● 流通事業者 ● 機材販売事業者 	<ul style="list-style-type: none"> ● IQF冷凍技術 ● 冷蔵倉庫技術 	参考予算:急速冷凍機 1000万ルピー



パートナーとすべき現地企業の特徴

業種	特徴	進出形態
資材販売企業	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の知識が豊富な販売員のネットワークを持ち、農家との関係が密接な事業者 	<p>輸出：日本から肥料・殺虫剤・殺菌剤および園芸栽培関連資材などを輸出し、現地代理店経由で販売する</p>
機材販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターサービスができるエンジニアを有している企業 	<p>輸出：日本から施設園芸に関する機材や、フリーズドライやIQF冷蔵といった加工の機器を輸出し、現地代理店経由で販売する</p>
栽培事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・施設園芸技術など、先進的な技術に関心の高い事業者 	<p>調達先：日本から施設園芸の管理システムなどを輸出し販売する技術コンサルティング：施設園芸の関連技術のコンサルティング契約を締結する 合併事業：青果栽培事業を合併で展開する</p>
加工事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・HACCPなどの国際品証を持ち、品質管理の意識の高い事業者 	<p>輸出：フリーズドライやIQF冷蔵といった加工機械を販売する。 合併事業：青果加工事業を合併で展開する</p>
流通企業	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の認証を取得しており、品質保持の意識が高い事業者。 	<p>調達先：日本で販売するための質の高い青果を調達する</p>



現地パートナー候補リスト

	名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
栽培事業者	H & D Agro Farm	トマト、きゅうり、ピーマンの栽培	輸出用の高品質野菜の栽培をしている。トマトのハウス栽培をしている	<ul style="list-style-type: none"> 先進的なハウス栽培技術の導入 合併会社による付加価値作物栽培・輸出事業パートナー 	https://www.listcompany.org/H_D_Agro_Info.html
機材販売事業者	DIMO Agri Businesses Diesel Motor Engineering (DIMO) Plc	農業関連機材・ハウス栽培資材・農業資材の輸入販売代理店	車両のエンジニアリングチームを持つためメンテナンスが可能。先進的な農業技術に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> フリーズドライなど果物/野菜の加工技術の導入 エッセンシャルオイルの抽出技術の導入 合併会社による付加価値作物の栽培、加工、輸出事業パートナー 	https://www.dimolanka.com
	CMC Engineering Export GmbH	食品加工・薬品加工・包装機械の販売代理店工場の衛生管理用品の販売	食品工場向けから医薬品の工場向けの幅広い機械のラインナップを持っている	<ul style="list-style-type: none"> フリーズドライ機、真空乾燥/フライ機、IQF冷凍機の導入 代理店契約による展開 	www.cmcenglk.com



現地パートナー候補リスト

	名称	業務内容	特徴	日本企業が期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
資材販売事業者	VMP Agri Business	ハウス栽培資材の 販売・ハウス建設・ ハウス栽培の実施	ハウス栽培でトマト・ピーマン・ 唐辛子などを栽培している。 スリランカのGAPを取得し ている	<ul style="list-style-type: none"> ハウス栽培自動化技術/生産能力 向上技術/冷蔵倉庫/乾燥技術の 導入 ハウス栽培資材の輸入代理店 野菜/花卉の輸出 合併事業のパートナー 	https://www.go4worldbusiness.com/member/view/3082187/vmp-agri-business.html
	Piyadasa Agro	マイクロ灌漑システム の輸入販売代理店	PEチューブ、ポンプ、ハイドロ ポニック水耕栽培の資材な ど幅広い資材を取り扱っている	<ul style="list-style-type: none"> ハウス栽培資材/灌漑資材/高品質 種子の販売代理店 合併事業のパートナー 	http://www.piyadasaagro.com/index.php



現地パートナー候補リスト

	名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
加工事業者	Lanka Agri Produce Management Corporation	農業バリューチェーンの管理・作物の輸出	生鮮食品の農家から小売までの流通管理を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 選別・洗浄・包装・保管の自動化技術の導入 合併事業のパートナー 	http://lapmc.co
	Navigata Foods (Pvt) Ltd	ドライフルーツ/野菜の製造販売 果物の缶詰/ ジュース加工	高品質な果物加工品の製造を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 浸透圧脱水/真空脱水/IQF冷凍/果物のレトルト技術の導入 合併会社による日本向け加工果物の製造事業パートナー 	https://www.go4worldbusiness.com/member/view/1847039/navigata-foods-private-limited.html
	Jewelex Agri kumaragama Pvt Ltd	マンゴー、玉ねぎ、メイズの栽培・輸出	高品質マンゴーの栽培を行っている	<ul style="list-style-type: none"> マンゴーの洗浄・乾燥・加工技術の導入 合併会社での栽培・輸出事業パートナー 	http://www.jewelex.lk
	Nelna Agri Development (Pvt) Ltd	果物の栽培・加工	高品質なマンゴーを欧米・中東・東南アジアに輸出している	<ul style="list-style-type: none"> IQF冷凍技術の導入 合併事業もしくは他の形での市場拡大パートナー 	http://nelnamango.com

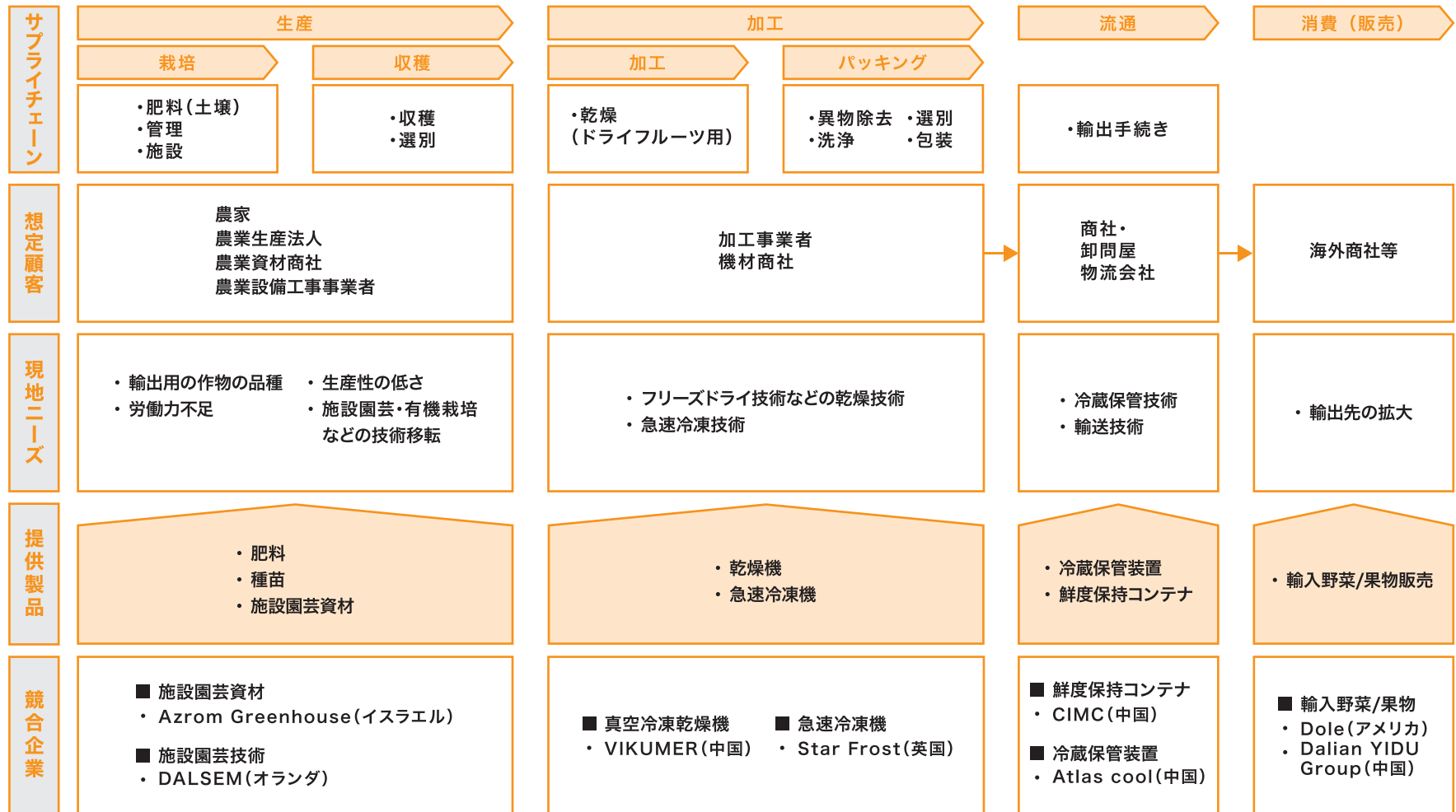


現地パートナー候補リスト

	名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
流通事業者	Ellawala Horticulture (pvt) Ltd	マンゴ어의栽培・販売・輸出	自社ブランドのTJCマンゴ어は有機JASを取得している	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーズドライ技術の導入 ・有機栽培技術/関連資材の導入 	http://www.tjcmango.com
	Sadharitha Agri Farms & Exporters (Pvt) Ltd	生鮮食品の輸出入	幅広い作物の国内外への卸売・輸出を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜・果物のIQF冷凍/冷却倉庫の技術の導入 	http://www.safeexports.com/category/vegetables/
	Alwis Agro Exports (pvt) Ltd.	農作物の輸出	現地の農家と提携し主にヨーロッパに輸出している	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の認証取得支援 ・日本への輸出 	https://www.srilankabusiness.com/exporters-directory/company-profiles/alwis-agro-exports-pvt-ltd/



スリランカにおける輸出用青果の参入可能性



4

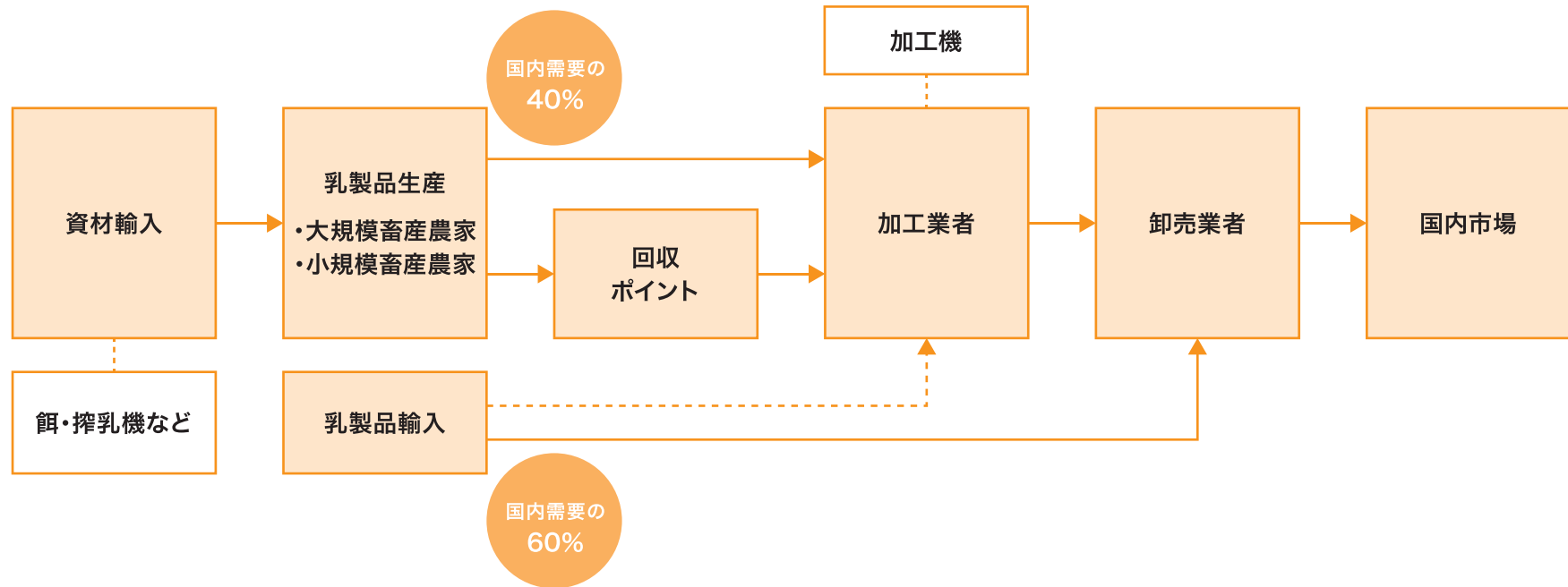
乳製品



業界構造(乳製品)

スパイスの輸出までのバリューチェーン

- 回収ポイントは中小規模の畜産農家のために、協同組合で運営されている。
- 大規模加工事業者はオランダ、ドイツ、フランス、インド、中国から加工機器を輸入している。



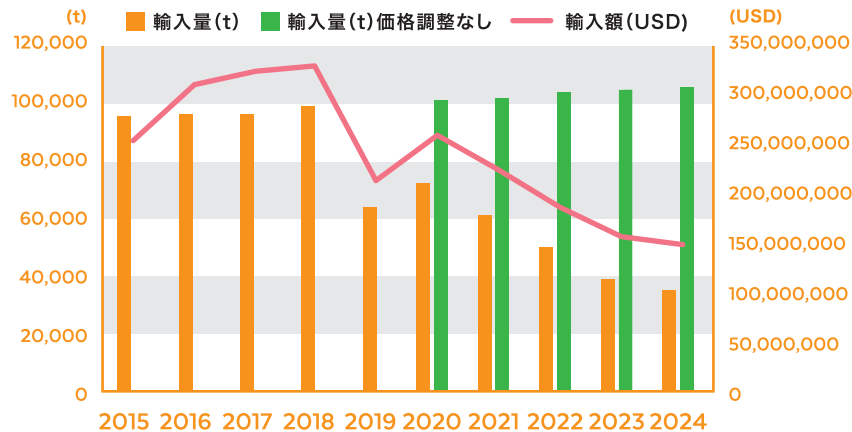
(出所)現地乳業界関係者ヒアリングより調査団作成



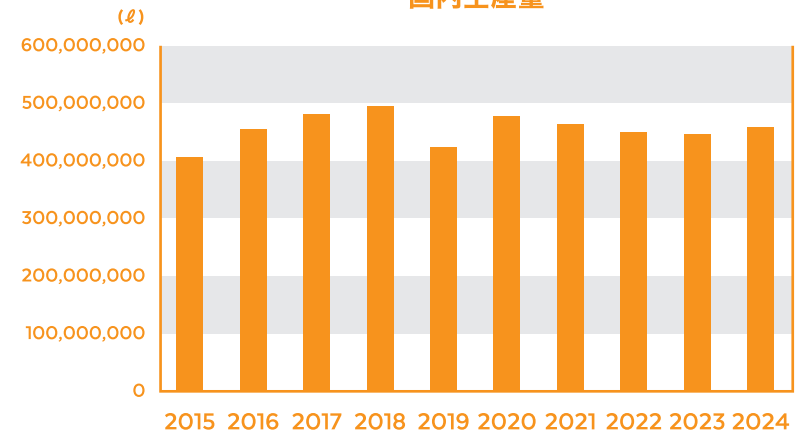
市場規模(乳製品)

- 乳製品の中でも主要なものは、紅茶などに入れて使用されるミルクパウダーである。政府は2019年にミルクパウダーの小売り価格調整を行ったため、輸入量は減少する見込みである。一方、価格調整がなかった場合は輸入量は今後も継続して増加する見込みである。
- 乳製品に対する需要は継続して増加する見込みであるものの、畜産農地や繁殖技術に制限があり、生産量を急激に増やすことができないため、国内生産量は急激には増加しない見込みである。

乳製品輸入



国内生産量



(出所)スリランカ輸出開発局データより調査団作成



市場規模(乳製品)

機器の輸入額(2017年)

機材名	台数	金額(USD)
搾乳機	1,786台	923,019
乳加工機	559台	10,766,940
遠心分離機	2,954台	166,563
乳加工機部品	5,066個	397,127

競合品の価格例

【遠心分離機】

	金額(USD)
トルコ製	395USD
中国製	490USD
インド製	665USD
イタリア製	750USD

主な機器の輸入元

	搾乳機	乳加工機	部品
輸入国	トルコ イタリア 中国	インド トルコ デンマーク オランダ ドイツ	インド トルコ デンマーク オランダ ドイツ

(出所)スリランカ輸出開発局データより調査団作成、現地乳業界関係者ヒアリングより調査団作成



政府の方針・助成金など

	内容
方針	<p>【繁栄の輝きと展望】：現政権による政府方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の条件に合った品種選定・紹介のための調査の実施 ・多くの家畜を飼育するための「垂直家畜舎システム」の紹介 ・北部での酪農の推進 ・生乳の品質別値付け制度の構築 ・国家畜産開発局を通して高品質の牧草の紹介 ・高品質な牧草に対する関税の緩和 ・中小酪農家設立のための土地提供と設備投資補助 ・生乳保管施設増加のための太陽光発電式冷蔵設備の紹介 ・酪農家と協同組合に対する搾乳機導入のための補助金や低金利融資の提供
輸入関税	<ul style="list-style-type: none"> ・搾乳機は非関税 ・粉乳の輸入には20%の関税がかかる
規制	<p>【食糧法(1980)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工製品に対する指定された保存料以外の使用禁止 ・商品に対する栄養表示義務(官報 673/8 1991年8月1日) <p>【飼料法(2016)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料輸入事業者の登録義務
価格調整	<p>政府は酪農家からの最低買取価格を70ルピー/ℓと定めている</p>
補助金	<p>国内での粉乳製造を促進するための30 ルピー/ 400グラムパックの補助 2,500万ルピーを上限とする酪農事業への低金利融資の実施</p>



ニーズが見込まれる製品・サービス(乳製品)

製品・サービス	想定する顧客	顧客のニーズ・課題	顧客の購買力
飼料製造販売	・ 畜産農家	・ 日本企業と合併で飼料製造販売事業を展開したい	飼料の多くを輸入に頼るため 輸入品と同等であれば購入する
繁殖技術	・ 畜産農家	・ 生産能力の高い乳牛品種が求められている ・ 乳量の多い品種の輸入は環境に適応できず失敗してきているため、環境条件に適応できる品種が求められている	—
生乳生産事業	・ 畜産農家	・ 生乳が不足しているため、大規模畜産事業への投資機会がある。政府系の企業から日本企業との合併企業への投資の要望がある	政府系の企業であるため、 資金力はある
衛生検査機	・ 畜産農家 ・ 協同組合 ・ 加工事業者	・ 衛生管理ができていないことから多くのロスが発生している ・ 加工事業者は畜産農家での衛生管理状態に不満を抱いているため農家や回収ポイントでの衛生携帯検査機が求められている	—
冷蔵技術	・ 協同組合	・ ドナーの事業で行っている協同組合支援の衛生管理プロジェクトで冷蔵技術が必要とされている	ドナーの事業で行っている プロジェクトでは資金の援助がある



ニーズが見込まれる製品・サービス

製品・サービス	想定する顧客	顧客のニーズ・課題	顧客の購買力
乳製品加工技術	・ 加工事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性を向上させるための技術のニーズがある ・ 現地でまだ生産されていない新しい乳製品を製造したい ・ 中小企業者向け設備(煮沸・冷蔵・ボトル充填機など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模事業者は価格より品質を重視する傾向にある 大規模企業は投資の余力があり、先進的な技術を有し・要望している ・ 中規模事業者では技術に投資ができないため、 日本企業に合併企業への出資を求める企業もある ・ 中小企業も近年成長しつつあり、増加傾向である
包装技術	・ 加工事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生分解性ヨーグルト容器などの環境配慮包装の紹介 	



パートナーとすべき現地企業の特徴

業種	特徴	進出形態
飼料製造販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産事業者との幅広いネットワークをもつ事業者 ・品質管理の意識が高い事業者 	合併事業：現地企業と合併で飼料の製造販売を行う
畜産農家	<ul style="list-style-type: none"> ・一定規模以上の土地が必要となるため、大規模な事業を行うことができる政府系の事業者などが望ましい 	合併事業：現地企業と合併で畜産事業を展開する
協同組合	<ul style="list-style-type: none"> ・国際機関などのプロジェクトを実施したところは、衛生管理の意識などが高いため、技術のニーズも高いと考えられる 	輸出：検査機器などを輸出・販売する
加工事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模事業者は欧米・オーストラリアなどの技術を既に採用しており、日本企業の技術の認知度は高くない。中小・中堅企業で拡大のための新たな技術を求めている事業者をパートナーとすべきである。中小・中堅でも市場の成長を見込んで投資に意欲的な企業はある 	輸出：煮沸・冷蔵・ボトル充填機など生乳の加工機材及び、乳製品製造のための機材を輸出・販売する
機材販売代理店	<ul style="list-style-type: none"> ・日本製品への理解が高く、日本製品を販売することに意欲的な事業者 ・メンテナンスなどのアフターサービスを提供することができる事業者 	輸出：煮沸・冷蔵・ボトル充填機など生乳の加工機材及び、乳製品製造のための機材を輸出し、代理店経由で販売する



現地パートナー候補リスト

	名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
乳製品の加工・販売	RichLife Dairies Ltd	乳製品の製造販売	スリランカで初めて超高温殺菌(UHT)したテトラパック入りのロングライフ牛乳を販売した	<ul style="list-style-type: none"> ・乳製品製造の新技術の紹介 ・環境配慮包装及び加工技術の紹介 	http://www.renukafoods.com
	ichi Dairies Lanka (PVT) Ltd.	乳製品の製造販売	スリランカ全国に販売網を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスクリーム、フレーバーミルクの加工技術の紹介 	https://www.facebook.com/Richidairies/
	Rasoda Dairies (pvt) ltd	乳製品の製造販売	HACCAP,ISO 22000を取得している	<ul style="list-style-type: none"> ・包装機械及び包装技術の紹介 	https://www.rasodairy.com
	Malindu Dairy Pvt Ltd	乳製品の製造販売	アイスクリーム・ヨーグルトなど幅広い商品展開	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスクリームなどの生産性拡大技術の紹介 ・乳製品ラボ機器の紹介 	https://www.facebook.com/malinduproducts/

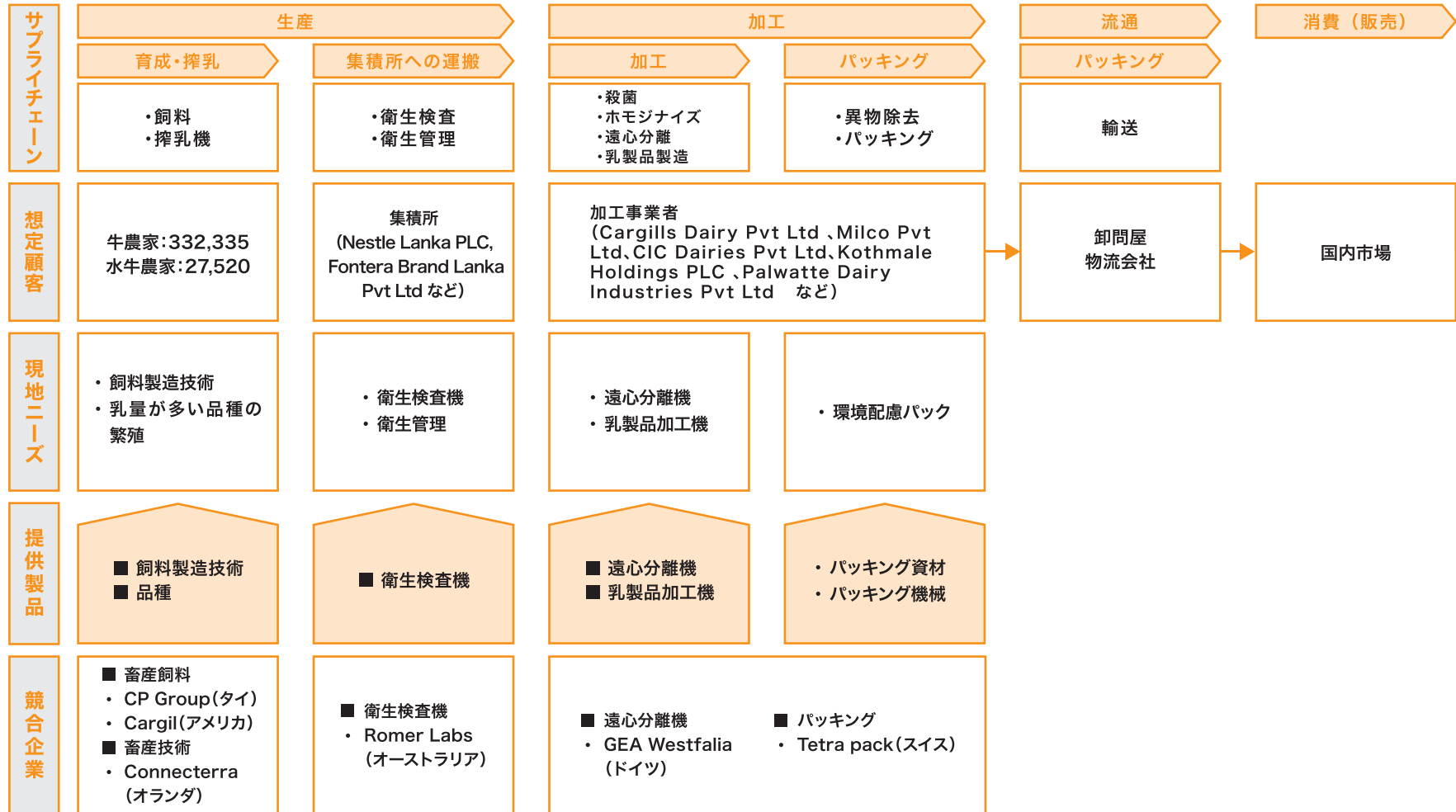


現地パートナー候補リスト

	名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
乳製品加工機材販売	Analytical Instruments Pvt. Ltd	乳製品加工機械の輸入販売	幅広い乳製品加工機械(搾乳機、保管タンク、ホモジナイザー、遠心分離機、アイスクリーム加工機など)及び検査機器を取り扱っている	・日本製の乳製品製造技術の販売代理店	http://www.aipl.lk
その他	All Island Dairy Association	乳製品業界の改善・地位向上	ロビー活動、コンサルティングや投資案件の誘致を通じて乳製品業界の活性化を目指している	・家畜飼料製造販売事業の合併会社への出資パートナーの紹介	https://www.aida.lk



スリランカにおける乳製品市場の参入可能性



5

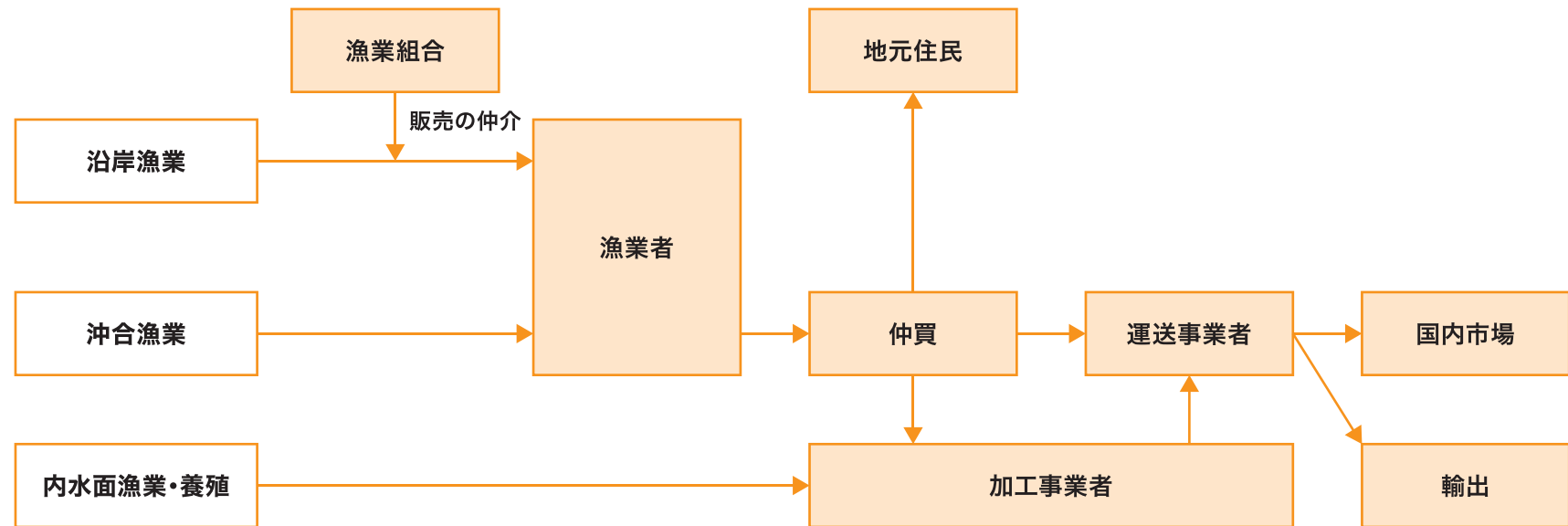
海産物



業界構造(海産物)

海産物のバリューチェーン

- 1人あたり水産物消費量:31.4kg /Year(2016)
- 漁業従事人口:269,694人(2017)うち女性雇用7%
養殖従事人口:22,898人(2017)うち女性雇用6%
- 非電動船:19,764台(2016)
電動船:30,903台(2016)
- 多くの漁業者が小型船で遠洋漁業に従事している。

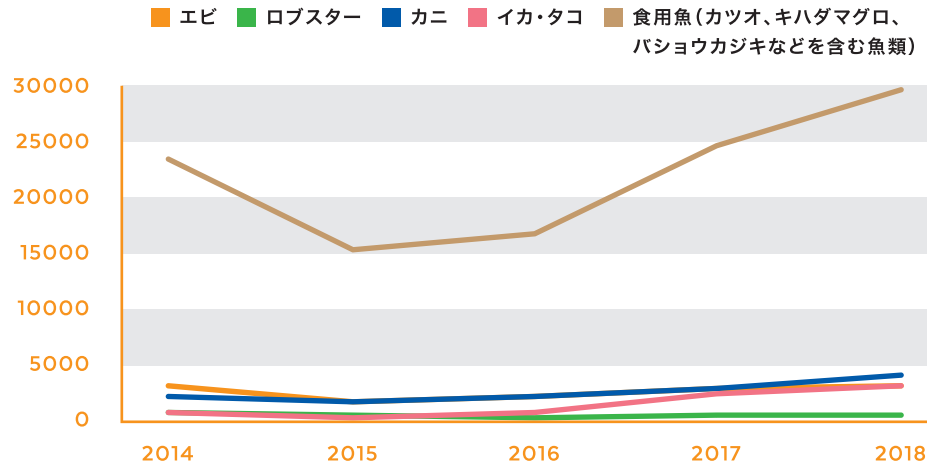


(出所)農林水産省ウェブサイトより調査団作成

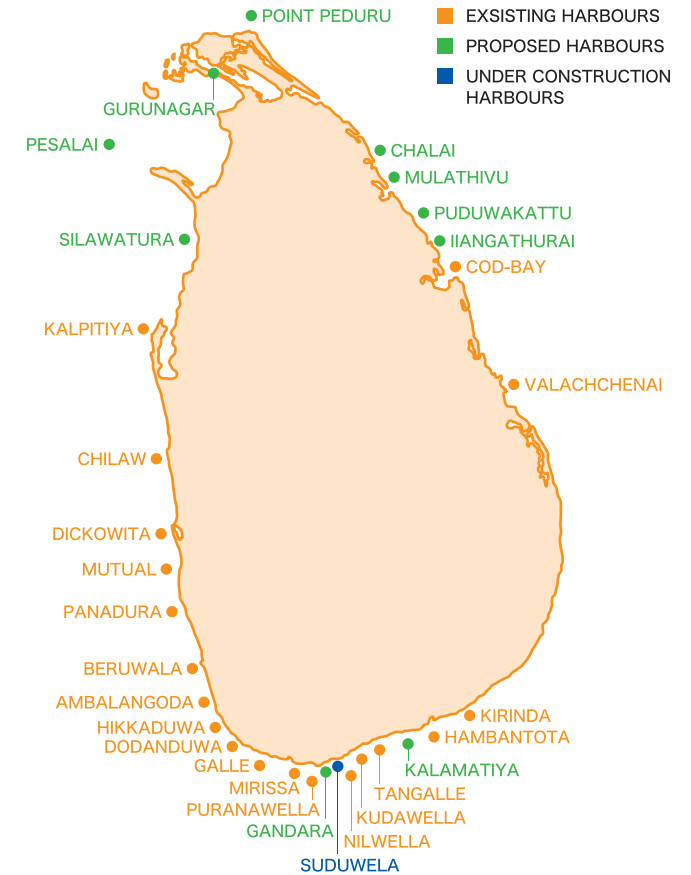


市場規模(海産物)

海産物の輸出額



港の所在地



機材の輸入額

機材	年度	輸入量	輸入額(USD)
冷蔵コンテナ	2016	336台	11,419,814
缶詰製造機	2019	51台	6,834,635
漁網資材	2019	639,454kg	1,181,625
ガラス繊維漁船資材	2019	2392kg	31,226

(出所)スリランカ輸出開発局データより調査団作成、Ceylon Fishery harbours Corporationウェブサイトより



政府の方針・助成金など

	内容
方針	<p>漁業セクターの清浄な生産に関する国家方針・戦略(2008)に以下の事項についての方針を定めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋及び内陸水産 ・ 水産養殖 ・ インフラ・設備整備 ・ マーケティング ・ 調査開発 ・ 非生物水産資源 ・ 普及・トレーニング ・ 漁村の社会経済的地位向上 ・ 津波と紛争の影響を受けた地域の復興 ・ 制度設計 ・ 国際協力 ・ 環境保護
法律	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業法 (1979) 海外の漁船によるスリランカ海域での活動を規制する法律 ・ 漁業海洋資源法 (1996) 漁業及び海洋資源に関する管理、管理、規制、保護、開発について定めた法律



ニーズが見込まれる製品・サービス

製品・サービス	想定する顧客	顧客のニーズ・課題	顧客の購買力
養殖飼料製造技術	・ 養殖事業者	・ 現状ではタイやインドから養殖飼料を輸入しているが、現地で製造するために機材や技術が求められている	合併での出資を求めている
養殖技術	・ 養殖事業者	・ 現地のエビ・カニの養殖技術は原始的であるために日本の先進的技術を取り入れ生産性をあげたい	国際相場と同等の価格であれば購買可能
加工機械	・ 加工事業者	・ 他国の機器は壊れやすいため、丈夫で生産性の高い日本製の機器のニーズがある ・ 加工時のロスが多いため、最終製品に加工するまで魚を最大限活用する方法を知りたい	他国に対する日本製品の優位性を理解している事業者であれば、比較的価格許容度が高いと考えられる
冷凍技術	・ 加工事業者	・ ハイブリッドアイスによる冷凍技術に関心がある	合併での出資を求めている
冷蔵輸送技術	・ 輸入機器 販売代理店	・ これまでに各国の先進的な技術を取り入れ、機器を販売してきたため、日本製の機器に関する	国際相場と同等の価格であれば購買可能



パートナーとすべき現地企業の特徴

名称	特徴	進出形態
養殖飼料製造販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養殖事業者に幅広いネットワークを持つ企業 ・ 製品の品質管理の意識が高い事業者 	合併事業：現地企業と合併で養殖飼料の製造販売事業を展開する
養殖・漁業資機材販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養殖事業者や漁協とネットワークを持つ企業 	輸出：養殖や漁業のための資機材を輸出し、販売代理店経由で販売する
養殖事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売網を持っており、今後生産性を改善して事業を拡大する事業者 	合併事業：現地企業と合併でエビなどの養殖事業を展開する
水産加工機器販売事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ アフターサービスができるエンジニアを有している事業者 	輸出：冷蔵・冷凍輸送に関する機材を輸出し代理店経由で販売する
加工事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ HACCPなどを取得している、品質管理の意識の高い事業者 	コンサルティング：品質管理体制の構築や信頼性向上のためのコンサルティング及びトレーニングを提供する
流通事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既に欧米製の冷凍技術などを採用している事業者であれば、比較的価格の許容度が高い 	輸出：冷蔵・冷凍輸送に関する機材を輸出・販売する

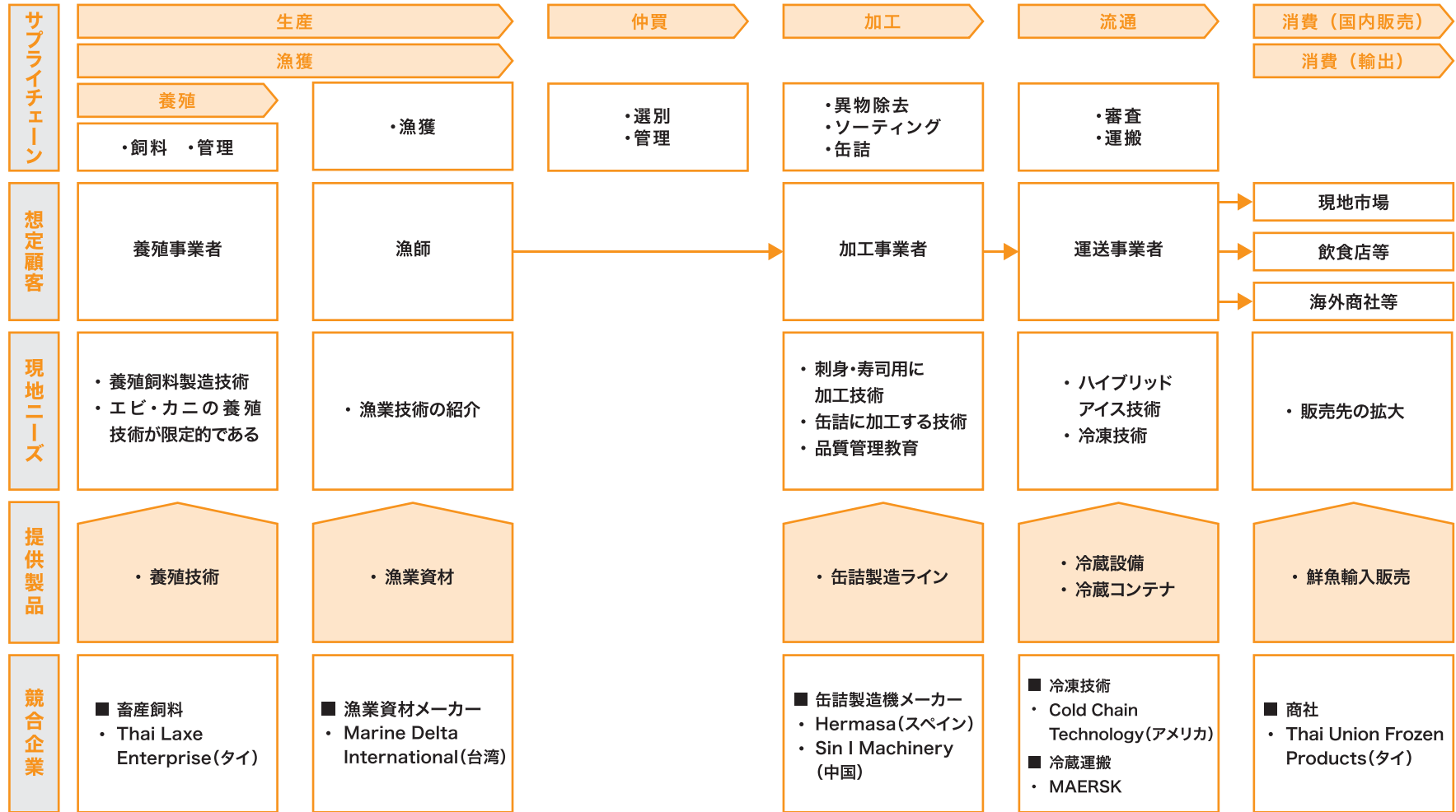


現地パートナー候補リスト

名称	業務内容	特徴	期待される役割	所在地/ウェブサイトなど
Global Fisheries (Pvt)Ltd	延縄漁業、水産加工	刺身への加工も行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養殖技術の紹介 ・ 養殖設備の紹介 	https://gsffish.com
Jay Sea Foods Processing Pvt Ltd	水産加工	HACCPを取得している	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加工過程でのダメージロス削減による生産性向上技術の紹介 ・ ヒスタミン/水銀検査費の削減 	http://www.jayseafoods.com
Lihini Sea Foods (Pvt)Ltd	水産加工	魚の切り身を欧米等に輸出している	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハイブリッドアイスを利用した冷却設備の紹介 	https://www.lihiniseafood.com/index.html
Taprobane Seafoods Pvt Ltd	水産加工	蟹の缶詰加工などを行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品信頼性向上のためのトレーニング 	https://taprobaneseafoods.com
KMN Aqua Services (Pvt) Ltd	エビ養殖飼料輸入販売	タイ、インドから輸入・販売している	<ul style="list-style-type: none"> ・ エビ養殖飼料製造機器・技術の紹介 ・ 現地での水産飼料製造販売合弁事業への投資 	www.kmnaqua.com
Iceman Technologies (Pvt) Ltd	冷蔵輸送関連機材の輸入販売	ドイツ、イタリアなどから輸入している	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷蔵輸送技術の紹介 	www.icemanlk.com



スリランカにおける海産物市場の参入可能性



発行者：アイ・シー・ネット株式会社

総責任者：井上真

全体管理：松本幸敏、稲田菜穂子、太田みなみ、淵上雄貴

調査担当：(南アジア農水産品・食品関連)小山敦史(リーダー)、石垣真奈、高野友里、松井猛彦

お問い合わせ：Business_Consulting@icnet.co.jp

デザイン：株式会社ツープラトン

本レポートは、出所を記載した二次資料及び当社による現地ヒアリング結果に基づき、有益だと判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。